



それじゃ絶対に失敗する 中小企業がITの導入で陥る罠

販売管理や人事管理、経理といった業務のIT化が当たり前となった今日、「そろそろわが社も」と検討を始めたものの、「あれも、これも」と欲張った結果、導入に要するコストや手間などのハードルが高くなり、途中で頓挫してしまうケースが少なくない。それを避けるには、確実にIT導入の効果が見込める業務領域に特化して、クラウドサービスなど初期導入コストの低い方法を活用するのが賢明だ。

確証がないIT化に多くの予算を投じるのは賢明な判断だとは言いがたい。

こうした懸念を背景に、「中小企業のITによる業務効率化は、確実に効果が出る領域に絞って行うのが最適」との認識から、近年、特定の業務領域に特化し、さらに導入の手間やコスト負担の低いクラウドサービスへの関心が高まっている。

人手頼みの経費精算業務をITで大幅に効率化

「領域を絞ったIT化」の対象業務としては、どのような企業でも日々発生する、経費や交通費の精算業務が挙げられる。今日でも、中小企業における日々の交通費・旅費・経費などの申請業務は、いまだ紙やエクセルで処理され、人手に頼っているのが実情だ。

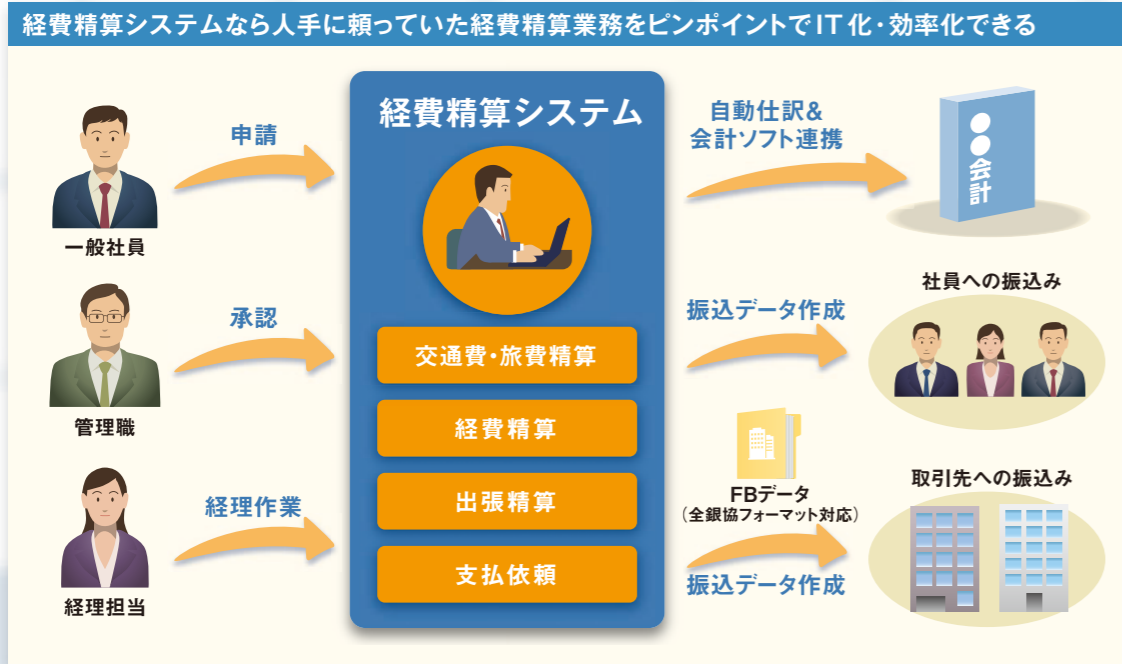
例えば、営業スタッフが交通費を申請する場合、利用した交通機関の運賃を調べ、紙やエクセルの申請書に記入して上司に提出する。上司や経理担当者などの承認者は、運賃に間違いはないか、定期区間の料金を控除しているかといったチェックを行っているから承認する。さらに、経

中小企業でも「ITを利用した業務効率化」が強く意識されるようになった昨今だが、業務システムの導入を検討する際には、ぜひ気を付けていただきたいことがある。それは、「せっかくの機会だから、販売管理や人事管理もIT化しよう」といった具合に、一度にすべての業務のIT化を進めようとしがちだということだ。

業務のIT化を検討するには、多くの時間と労力を要する。また、大規模にIT化する場合、

事管理もIT化しよう」といった具合に、一度にすべての業務のIT化を進めようとしがちだということだ。

業務のIT化を検討するには、多くの時間と労力を要する。また、大規模にIT化する場合、



算システムである。経費精算システムは交通機関の乗り換え案内ソフトを内蔵しており、営業スタッフが交通費を申請する際は、経路を入力するだけで自動的に交通費が入力される。SuicaやPASMOなどICカードの利用履歴を読み込めばそのまま申請できる機能や、あらかじめ登録した定期区間の運賃を自動的に控除する機能も備える。従来の申請・精算フローを変えたくない企業のために、これまで使用してきた紙の帳票の体裁を踏襲することも可能となっている。

さらに、自動仕訳や会計ソフト連携機能など、手作業で行っていた経理業務を大幅に効率化する機能も備える。

申請作業はもちろん、特に経理業務の省力化や合理化を徹底的に追求

しているのだ。

**「楽楽精算」なら100人利用でも月3万円
導入や操作も簡単**

このような特徴を備える経費精算システムを、すでに全国約200社、2万人以上に提供しているのがラクスだ。

同社のクラウドサービス「楽楽精算」は、業務のIT化に多くの投資を行えない企業でも、簡単かつ低コストで導入できることをモットーとする。このコンセプトは、かつてラクス自身が経験した業務のIT化の難しさから生まれたものだ。同社代表取締役社長の中村崇則氏は次のように語る。

「かつて当社でも、日々の業務を人手に頼って回すことに限界を感じ、販売管理や人事、経理業務などを統合的に管理できるシステムの導入を検討したことがありました。しかし、確かな費用対効果が見えず、失敗するかもしれない取り組みに多くの時間とコストをかけたけれど、断念したのです」

そこで、ラクスは自社が抱える課



中村崇則
ラクス
代表取締役社長

中小企業が業務のIT化を成功させる鍵は「楽楽精算」などのサービスも活用して確実に効果の出る領域から順に取り組みることにあるようだ。

[問い合わせ先]
株式会社ラクス
URL <http://www.rakurakuseisan.jp>
TEL 03-6675-3631